



Up with People 日本ツアー

2005 年秋

報告書

Up with People 日本オフィス
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 2-15-9
Tel: 03-3400-7495
www.upwithpeople.org

目 次

| | |
|-----------------------|--------|
| 1. はじめに | 3 ページ |
| 2. 2005 年秋日本ツアースケジュール | 4 ページ |
| 3. ツアー総評 | 5 ページ |
| 4. 愛知県豊田市 | 9 ページ |
| 5. 長野県丸子町 | 12 ページ |
| 6. 大阪府大阪市 | 15 ページ |
| 7. 奈良県室生村 | 18 ページ |
| 8. 東京都多摩市 | 22 ページ |
| 9. 千葉県我孫子市 | 26 ページ |
| 10. 今後の課題 | 30 ページ |
| 11. おわりに | 30 ページ |

はじめに

このたびは Up with People(UWP)日本ツアーにご協力いただき、またこのプログラムに参加している若者達に貴重な体験をさせていただきまして、まことにありがとうございました。10月31日の月曜日、彼らは成田空港より無事オランダへ旅立っていき、また12月12日、おかげさまで約半年間にわたるワールドワイドツアーをイタリアにて無事に終了させることができました。

9月19日のセントレア到着から6週間の日本ツアーがスタートしました。愛知県豊田市では、農業体験や閉幕直前の愛知万博見学、三好町ではカヌー体験。そして来年上田市との合併をひかえた長野県丸子町では「国際交流フェスティバル」に参加することができ、Up with People タウンである『丸子町』としての集大成を飾ることができました。また大阪市では、新京橋商店街での美化活動や御堂筋パレードへの参加。また、関西圏の大学生と「理想のまち」についてのディスカッション。初めて訪問した奈良県室生村では、国宝室生寺での講話や自然を堪能したウォークラリー。東京都多摩市では、小中学生との交流活動や永山商店街での交流。そして、千葉県我孫子市では、メンバーへの似顔絵プレゼントやメンバーによるイラスト制作といった多岐にわたる交流活動。国会議事堂見学やディスカッション、カナダ大使館やNEC本社でのCSR(企業の社会的責任)についてのプレゼンテーションなどなど。世界27の国や自治領から参加した若者達は、日本文化に触れるとともに、日本人のもてなしに時に戸惑い時に歓喜し、風雨や地震にも遭遇しながら、6週間を過ごしました。これらたくさんの事柄を経験し、若者達は確実に日本という国を心と体で学び取っていたと、私達は確信しております。

今回の日本ツアーを終え、たくさんの方々からご感想やご意見をいただきました。つきましては、ここに2005年秋日本ツアーの概要と皆さんからの声をご報告いたします。他の訪問地での活動内容も是非お読みいただき、情報を共有していただきますよう、よろしくお願いいたします。

そして最後に、若者達に最良の思い出をつくる機会を与えてくださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

Up with People 日本オフィス

宮脇真一 (リージョナルディレクター／アジア)

徳田依子 (プロジェクトマネージャー)

富田愛里 (アドミッションズコーディネーター／アジア)

2005 年秋日本ツアースケジュール

今年の日本ツアーは以下の 6 都市を訪問いたしました。

- 9/19 - 9/26 愛知県豊田市(訪問 7 回目)
- 9/26 - 10/3 長野県丸子町(訪問 7 回目)
- 10/3 - 10/10 大阪府大阪市(初訪問)
- 10/10 - 10/17 奈良県室生村(初訪問)
- 10/17 - 10/24 東京都多摩市(訪問 3 回目)
- 10/24 - 10/31 千葉県我孫子市(訪問 2 回目)

各訪問地での詳細のスケジュールは以下の通りです。

| | | | | | | | |
|--------|-------|-------------------------|------------------|---------|------------------|---|--------------------|
| 愛知県豊田市 | 9月19日 | 月 | 日本到着(中部国際空港) | 奈良県室生村 | 10日 | 月 | 移動日(途中清水寺見学) |
| | 20日 | 火 | 内部カリキュラムデー | | 11日 | 火 | 内部カリキュラムデー |
| | 21日 | 水 | 地域活動 | | 12日 | 水 | 地域活動 |
| | 22日 | 木 | 愛・地球博見学 | | 13日 | 木 | 室生寺・山上公園見学 |
| | 23日 | 金 | トヨタ会館見学・セレブレーション | | 14日 | 金 | ウォークラリー |
| | 24日 | 土 | メンバーの休日 | | 15日 | 土 | 秋祭り見学・セレブレーション |
| | 25日 | 日 | ホストファミリーデー | | 16日 | 日 | ホストファミリーデー |
| 長野県丸子町 | 26日 | 月 | 移動日 | 東京都多摩市 | 17日 | 月 | 移動日 |
| | 27日 | 火 | 内部カリキュラムデー | | 18日 | 火 | 内部カリキュラムデー |
| | 28日 | 水 | 地域活動 | | 19日 | 水 | 地域活動 |
| | 29日 | 木 | 地域活動 | | 20日 | 木 | 地域活動 |
| | 30日 | 金 | リハーサル(半日活动) | | 21日 | 金 | メンバーの休日 |
| 10月1日 | 土 | まるこ国際交流フェスティバル&セレブレーション | 22日 | 土 | 永山商店街交流・セレブレーション | | |
| 2日 | 日 | ホストファミリーデー | 23日 | 日 | ホストファミリーデー | | |
| 大阪市 | 3日 | 月 | 移動日 | 千葉県我孫子市 | 24日 | 月 | 移動日 |
| | 4日 | 火 | 内部カリキュラムデー | | 25日 | 火 | 内部カリキュラムデー |
| | 5日 | 水 | 地域活動 | | 26日 | 水 | 国会議事堂・NEC・カナダ大使館見学 |
| | 6日 | 木 | 大阪城見学&ディスカッション | | 27日 | 木 | 地域活動 |
| | 7日 | 金 | メンバーの休日 | | 28日 | 金 | セレブレーション |
| | 8日 | 土 | ホストファミリーデー | | 29日 | 土 | メンバーの休日 |
| | 9日 | 日 | 御堂筋パレード参加 | | 30日 | 日 | ホストファミリーデー |
| | | | | | 31日 | 月 | オランダへ出発(成田空港) |

ツアー総評

2005 年秋日本ツアーは秋晴れの 9 月 19 日に始まった。アメリカ西海岸・ロサンゼルスからの直行便ということ、また殆どのメンバーが初来日ということもあり、中部国際空港に降り立った彼らは、元気には振舞うものの、期待と不安が入り混じった表情を浮かべ、中にはかなり緊張しているメンバーもいたようだ。

<UWP 参加メンバー>

- **プロフィール:** 今回のプログラムは、領地を含む世界 27 カ国から集まった、参加者 39 名、スタッフ・アシスタント 15 名の合計 54 名で構成。平均年齢は 23 歳で、高校を卒業してすぐ参加した者もいれば、離職して参加した者もいた。また、日本を含むアジアからの参加メンバーが多いことも今回のグループの特徴である。UWP ロードスタッフ(ツアー同行スタッフ)より、「英語がネイティブではないメンバーが多いためか、活動中に話す英語のスピードも前のグループよりゆっくりで、皆にとって良い環境である」との報告もあった。受け入れ先からも「去年よりもメンバーがしっかりしている」というコメントが届いた。
- **キャラクター(長所・短所):** エネルギーに溢れたメンバーが揃っていて、いつも笑い声がたえなかった。毎朝のミーティングでは、気合を入れるために掛け声をかけるなど、チームワークが良かった。また、メンバーの多くは深い探究心を持っており、見学先やゲストスピーカーを迎えての講演では、様々な質問が飛び交い、ディスカッションセッションになることも多々あった。その反面、時間にルーズなところがあり、集合時間に遅れたり、移動するまでに時間がかかったりと、受け入れ先に迷惑をかけることもあった。
- **体調:** いつも元気だったが、日本ツアーの中盤に入った頃に体調を崩すメンバーも出てきた。約半年間にわたるワールドワイドツアーの後半に差し掛かったことや、スタート地点であるアメリカからまったく違う文化の国に来て、最初は気が張っていたメンバーも日本に慣れて気が緩んだということも関係していたようだ。また、スケジュールの関係上、グループ全員での内部ミーティング(プログラムから何を学んでいるか/どのような心境の変化があったか/その変化にどのように対応しているか等、コミュニケーション重視のミーティング)を実施するチャンスがあまりなく、お互いの状況を知ることができずにテンションも下がっていたようだ。その反省を踏まえて内部ミーティングをある訪問地で実施したところ、グループのまとまりが良くなり、また、メンバーの休日や訪問地への移動中に休息時間を設けたことによって、メンバーの体調も良くなっていった。
- **メンバーの人数が少なく、当初、受け入れ先のいくつかは難色を示していたが、ツアー終了後振り返ってみると、悪い点ばかりではないことを実感した。(運営、移動、施設の確保など)**

<ホストファミリー>

今回、6 訪問地で、合計 219 家族がホストファミリーとしてメンバーを受け入れてくれた。初めてホストファミリーになる方もいれば、以前受け入れをし、再度応募される方もいた。家族の一員になることで、メンバーは日本での生活様式を体験することができる。メンバーはそのコミュニティーで生きる家族のありのままの生活を垣間見ることができ、またホストファミリーも彼らを家に迎え入れることで

異文化間の相違点に気づいたり、自宅にいながら世界を身近に感じることができるのである。

- **次回も受け入れたい！88%**: ツアー終了後、ホスト全員にお礼の手紙と共にアンケートを送付した。回答率は23%と低かったが、回答者の88%は次回も必ず参加したいという結果であった。残りの12%も拒否的な回答ではなく、その半分以上が「今回は娘が家にいないので、老夫婦だけでは体力的に厳しい」などの家庭の事情を理由に挙げている。
- **日本人メンバー受け入れについて**: いくつかの訪問地では、日本人メンバーのホストファミリーを探すのに苦労したとの報告があった。外国人メンバー同様、日本人メンバーも自分の家とは違う環境に入ること、新しい視野を広げる機会を得る。ホストファミリーにとっても、常に異文化に接している彼らを受け入れることにより、日本人の観点で、彼らの異文化に対する考えやUWP ツアー中の彼らの活動を言葉の壁なく聞くことができるので、中にはすすんで日本人メンバーをリクエストするホストファミリーもいるほどだ。応募動機が様々なため、受け入れ先の方々も対応が難しいと察するが、少なくともホスト募集の際の日本人メンバーに対する受け入れ窓口のスタンスは、UWP 側と同じポジティブなものであってほしいと願う。
- **急なスケジュール変更について**: 運営の関係上、UWP から急遽、時間や場所を変更させてもらったケースがあった。こちらからは書面にて変更をホストファミリーに伝えた(各メンバーが直接ホストに渡した)。受け入れ先のホスト担当の方に、個別で対応をお願いしたケースもある(先遣隊の受け入れホストなど)。受け入れ先も含め、メンバーのホストファミリーにもフレキシブルに対応、協力していただき大変感謝している。今後はこのようなことが頻繁におこらないように努めたい。

メンバーは六家族との生活を通して、文化だけでなく、日本人の誠実さや善良さ、日本式の丁寧なおもてなしなど、国民性としての心の温かさを感じとったようだ。それと同時に、当たり前のことだが、日本人の考え方や物事の進め方が人によってかなり差があることに戸惑い、結局は人と人との交流であるということも学ぶことができた。色々な家族がいて、色々な考え方・捉え方があることが面白いと、あるメンバーが語ってくれた。ホストファミリーも同じように感じとってくれる方がたくさんいて、そういった相互理解のもと、また交流の輪が広がったようだ。(各訪問地の「ホストファミリーの声」を参照)

<地域活動>

訪問する各大陸での地域活動の内容は、各国の地域活動に対する考え方、訪問地のニーズ、受け入れ先の意向などによって異なる。日本の場合は、人々(特に子供とご老人)との交流、ふれあいに重点を置いた内容が好まれる。よって、今回のツアーも、小・中学校や福祉施設、老人医療施設に訪問するケースが多かった。その他には、日本文化体験や屋外での清掃活動が行われた。メンバーにすれば、子供や老人に偏らずバランスのとれた活動をしたいと考えるのだろうが、受け入れ先の意向も理解できるので、「どのようにUWP サイドが受け入れ先とコミュニケーションをとって活動内容を詰めていくかが今後の課題ではないのか」というコメントを聞いた。改善点には(いくつかの地域活動訪問先/内容に当てはまる)、①訪問先の方がUWP プログラムのことをよく理解していなかったこと、②詳細がよく組まれていなかったこと、③活動主旨がクリアでなかったこと、④その土地、コミュニティの特徴が活かされていないこと、などが挙げられた。とはいえ、メンバー達は、たくさんの人との出会いから数々のことを学び、いくつもの有意義な交流があったのは事実であり、「今後來日するメンバーにも是非体験してもらいたい」との意見も多数あった。活動訪問先とUWP の両者に

とって、活動主旨がはっきりしていて、内容も充実している、そして楽しい活動を企画することが、今後、息の長い異文化交流をするために不可欠であることは間違いない。

<セレブレーション>

セレブレーションは、マルチメディアや音楽、ダンスを用いて、訪問地での活動報告(1週間の活動内容、交流や地域活動先の様子)やそのコミュニティに迎え入れてくれた感謝の気持ちを発表する場であるとともに、UWP からゲストに「より良いコミュニティにするために何かを始めてみよう」というメッセージを伝える場でもある。スクリーンを使用しての発表は、ゲストに活動をビジュアルで分かりやすく伝えたり、効果的な演出をするのに有効であった。世界共通である歌やダンスは言葉や文化を越え、人と人とが親しくなることが出来るもので、発表中も沢山の子どもやお年寄りがメンバーと一緒に楽しんでいた。

- **会場のサイズ:**スクリーンがあるため、ステージの奥行きが浅いと、通常、スクリーン裏から投影するプロジェクターをスクリーン前に設置しなければならず、メンバーは(影ができるため)スクリーン前のスペースを有効に活用できない。そのため、メンバー全員が舞台上上がった時の全体図が不自然になってしまうことがあった。
- **施設利用について:**プログラムの一環として、設営、撤収はすべてメンバーがスタッフの指導のもと行うため、利用時間の延長や施設責任者とのやりとりなど、無理を聞いてもらった時があった。また、UWP が使用できるスペース、部屋が限られていると(事前にお問い合わせした部屋数を満たしていない)運営がうまく進まないため、会場を押さえる際は UWP との再確認が必要。
- **リハーサルについて:**基本的に、セレブレーション前にはメンバー全員出席のリハーサルを約3時間行う。ただ、セレブレーション以外の活動が入っていたときは、リハーサルの時間がずれてしまい、結果、開場時間が遅れるケースがあった。

<受け入れ先、事前準備>

ほとんどの受け入れ先が約2~4ヶ月前から実行委員会を立ち上げ、訪問までの間、定期的/変則的に委員会ミーティングが行われた。UWP スタッフは可能な限り出席し、やむを得ず欠席の場合は、後に受け入れ先からミーティングで話し合われた内容を報告してもらった。殆どのコミュニケーションは E-mail でとられ、CCで他の委員会メンバーにも送ることにより、全員が同時に情報を共有でき、さらに便利で時間短縮に有効であった。

- **役割担当&ミーティング:**多くの訪問地では、チームに分かれ(ホストファミリー担当、地域活動担当、交流会(レセプション)担当、PR 担当など)、各チームのリーダー全員が E-mail の他に定期的にミーティングを行い、最新の情報を共有したり、意見交換を行っていた。時期をみて委員会全体のミーティングも行うことにより、委員会としての団結力が高まり、より準備が進んだようであった。
- **情報共有:**実行委員会の中で、また UWP との間で問題になったのは、知らない間に“こと”が進んでいるということであった。各担当に分かれ、判断を下すことが必要な場合もあるだろうが、すべての事柄における最新の情報を、他の委員会メンバー及び UWP が共有していることが、訪問時の運営をスムーズに行うためには必要不可欠であると、改めて感じた。UWP サイドとしても、本部から送られてくるはずのデータ(クループロフィールなど)の到着が遅れ、受け入れ先に待ってもらった結果になった。また、各地の受け入れ先より「他の町では何をやっているかも

っと詳しく知りたい」「他の町の実行委員会とコミュニケーションをとり、横のつながりをつくりたい」との声も多々あった。

- **先遣隊**: 豊田市を除く全ての訪問地には、UWP 参加メンバーを訪問 1 週間前に先送りして実行委員会のサポートやグループ内部の資料作成などを行った。町によっては先遣隊の行動内容をよく把握していなかったところもあったようで、UWP サイドのより詳細な事前説明が必要だと思った。先遣隊としての仕事はプログラム内の「インターンシップ」で、メンバーも慣れない環境で一生懸命取り組んだと思う。先遣隊を効果的に活用した委員会もあり、「お互いにとって有効なシステムなので続行してほしい」とのコメントがあった。
- **訪問中の受け入れ委員会の動き**: 町によって様々だが、委員会メンバーが毎日活動先に参加し、運営がうまくいくよう万全のサポート体制を整えてくれたところがあり助かった(使用施設の施錠、ゴミの処理まで UWP と共に行ってくれるなど)。また、UWP メンバーが「受け入れ先」としてすぐ認識できるように、お揃いのジャケットなどを着用してビジュアル的に工夫してくれた委員会もあった。UWP メンバーも「何か質問があるときにアプローチしやすい」「彼らのチームワークを感じ取ることができ、訪問を歓迎されていると感じ、うれしく思う」と感想をのべるメンバーもいた。ある受け入れ先の方は、UWP 活動同行について、「今まで長い間関わってきたのに、今回初めて全部同行してみて、やっとすべての活動内容が見えてきた感じ。楽しい！」とコメントされた。

<Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介活動とプログラム参加への興味>

これまで Up with People 日本人参加者の多くが、日本ツアーでメンバーと交流(ホストファミリー、セレブレーションに参加、大学など学校での交流活動)したことをきっかけに参加を決断してきた。今回も、実行委員会のサポートもいただき、多くの若者とメンバーとの交流ができる機会を計画し、将来参加希望者へのプログラム紹介や希望者の 1 日体験に力を入れた。

セレブレーション後に行った説明会には 88 名が参加、そのうち特にプログラムに関心を持ち、活動の詳細やイベント情報を希望した方 50 名、そして参加希望しインタビューを受けた方が 6 名だった。滞在中にプログラムに関心を持った人数に対して、実際に参加を希望しインタビューを受けた人数は予想したよりも少なかった。しかし時に日本文化では、個人が参加に踏み切るまでには段階をへた呼びかけが大切であるので、今後、ツアーを通して関心を持ってくれた方への「参加者体験談 & 説明会」を実施し、フォローアップを行っていきたい。

ツアーを振り返ってみると、思っていたよりもスムーズに進んだと思う。雨や地震(中には生まれて初めて地震を経験したメンバーもいた)にも遭遇したが、ツアー期間中の天候は全体的に良く、活動のキャンセルもなく無事に終わった。去年、受け入れてくれた訪問地の方からは「UWP のプログラムがしっかり組み立てられてきた」「私たち(受け入れ先)もUWPの動き方が見えてきたので、動きやすかった」とのコメントがあった。もちろん全ての面において改善の余地があり、今後も色々な意見を取り入れ、プログラムのバージョンアップをはかりたい。今回のツアーを通して、メンバーがたくさんのことを経験し、そして学び取り、自国に帰ってくれたと確信している。

第1訪問地:愛知県豊田市 (9/19 - 9/26)

<受け入れ先(実行委員会)>

豊田市国際交流協会(TIA)

ホームステイクラブ オープンハート

UWP同窓生サポートチーム:山田美由紀さん 中島光恵さん その他数名
(初日・地域活動日・セレブレーション日のサポートや各ミーティングに参加)

* 受け入れまでのミーティング:7月より隔週土曜日午前を実施

* 役割: TIA 全ての分野での受け入れ窓口

オープンハート ホストファミリー、金曜日のレセプション担当

<ホストファミリー>

豊田市在住の37家族

ホストファミリー説明会:9月3日(土)午後1:30よりTIAにて実施

ホストファミリー反省会:10月1日(土)午後よりTIAにて実施

ほとんどの方が、以前UWPを受け入れたことがあったが、初めて受け入れる方もいた。反省会では、リピーターの方と初めての方達との間で有意義な意見交換が繰り広げられた。

<地域活動先>

* けやきワークス(UWPメンバー10名・通訳ボランティア2名・TIA責任者)

去年も訪問した身体障害者通所授産施設にて作業チームの方達と共にダンボール組立てやパッケージ詰めなどを体験。また施設のツアーや施設とコミュニティーとの関わりについて説明を受けた後、質疑応答を行う。昼食:施設の方達と共に食堂にて

* あすてボランティアグループさくら(UWPメンバー7名・通訳ボランティア名・TIA責任者)

外国から駐在員として来られている外国人(トルコ、ブラジル、インド、マレーシア等)の配偶者の方達と一緒に日本食(料理&小物作り&ディスカッション)

* OISCA(UWPメンバー8名・通訳ボランティア2名・TIA責任者)

アジア・太平洋の地域から農業研修に来られている方達と一緒に農業体験(稲刈りを予定)&ディスカッション。昼食:田んぼにてUWPが用意したサンドイッチ

* トヨタ自動車元町工場(UWPメンバー10名・通訳ボランティア(工場側で用意)・TIA責任者)

工場ツアーやトヨタ生産方式・グローバル推進センター概要や海外支援について、ディスカッションやロールプレイを含めながら学習。昼食:工場内食堂にて

* カヌー体験 in 三好町(UWPメンバー14名・通訳ボランティア2名・MIA(三好町国際交流協会)責任者)

三好町国際交流協会の受け入れで、三好町で有名なスポーツ・カヌーを体験。昼食:文化センターサンアート内のレストランにて

<地域学習>

木曜日: 愛・地球博見学 昼食:会場内にて

金曜日：トヨタ自動車工場見学&トヨタ会館見学 昼食懇談会：トヨタ会館にて

昼食懇談会ではトヨタ自動車のプレゼンテーションや質疑応答の時間もあり、
好奇心旺盛なメンバーはトヨタがどのように世界進出を果たしたか、また環境への取り組みについて質問。

<表敬訪問>

豊田市長 地域活動日午後8名が訪問

三好町長 地域活動日午前14名が訪問

<UWP豊田セレブレーション&レセプション>

23日(金) JAホール

開場 午後5:30 スタート 午後6:00

司会・立食buffet・日本文化紹介コーナー(茶道など):オープンハート担当

午後6:00~6:45まではレセプション形式で、メンバー&ゲストの交流会が立食パーティー形式で行われた。セレブレーションは午後7:00より開始。日本ツアー第一訪問地ということで、日本独特の舞台の作りや日本ツアーのために作られた構成に、メンバーは最初は戸惑っていたが、本番ではホストの方々や地元の学生など、ゲストの皆さんの盛り上がりで感動し、楽しい時間になった。

<Up with Peopleが行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

水曜日： トライデント外国語専門学校にて英語教員と教務チームと面談

愛知淑徳大学国際交流サークル ASUGAN(Aichi Shukutoku Global Action Network)にて
大学生と交流(福笑いゲーム、プログラム紹介、意見交換)

ZIP FMの人物紹介番組にメンバー2名が出演、活動を紹介

<プログラム参加への興味>

セレブレーション後に行った説明会…23名参加

関心者カード記入者(プログラムに関心を持ち、活動の詳細やイベント情報を希望)…10名

<その他>

*施設利用:

豊田スタジアム:月曜~木曜までミーティング等に利用。部屋の大きさもちょうど良かった。また出発日は屋外駐車場のみ利用し、大型バスやホストの方の自家用車も停めることができた。

JAホール:セレブレーション日に利用)ホールの他に、メンバーの控え室、ミーティング室、プログラム説明会室など3部屋を利用。

*駐車場(UWPがレンタルしている2tトラック&10人乗りワゴン車):

トヨタスタジアム駐車場・TIA 駐車場・JA ホール駐車場を利用

*先遣隊:なし

＜滞在を終えて＞

受け入れ先の声：

- 実行委員会の是非（隔週全員が集まるミーティングは多くの人と情報共有ができる反面、日程調整や実務面への反映が困難。UWP スタッフと TIA 事務局で実務面、調整役を担当し、ホストファミリー関係や交流会はオープンハートという役割分担毎に動いてもよいのでは）
- 準備時期の早期決定（UWP のツアー日程や規模がおおよそで分かれば、次回は早期に態勢を整えたい。それに合わせて広報や PR をより充実させ、ホストファミリーの確保に努めたい。）
- フィードバックの形式（UWP メンバーが豊田市での活動を振り返ってまとめたレポートや評価用紙があるとよい。できれば次の滞在地に向かう前に TIA や施設、ホストに渡してもらえるとよい）。
- 地域活動で提示された内容が、UWP の活動目的に適しているかを検討したい。豊田市での活動を UWP プログラムにどう反映できるのかを、その他の訪問地での内容も含めて UWP 側と共有したい。
- 資料を読んだりレポートを書くなど、地域活動の事前学習がもっと必要ではないか？ 活動内容や UWP との関係、訪問の目的などをメンバーが認識していないケースがあった。
- UWP 側の引率者がメンバーと施設担当者の間を取り持ってほしい。
- メンバーのプロフィールの改善をお願いしたい。

ホストファミリーの声：

- 毎回、とても良い子が来てくれて楽しい経験をしている。今後も受け入れたい。
- もう少し詳しいメンバーのプロフィール（顔写真付き）があればよかった。
- 毎日がハードスケジュールで、早く寝させるなど、健康管理には気がついた。
- メンバーの休日（土曜日）の帰り時間が遅かったので心配した。
- ホストしたメンバーの出身国はそれほど豊かな国ではないが、自分でお金を貯めて参加したということを知り、同世代の子供達にとっては、メンバーと接することでいい勉強になったようだ。
- 国際電話のかけ方（コーリングカード等）の指導をメンバーに詳しく行ってほしい。
- （受け入れたメンバーは）何に対しても積極的に興味を持って体験してくれたので、こちらも楽しく過ごせた。

UWPメンバーの声：

- 初めてのジャパニーズホストファミリーで、日本のおもてなしに感動。
- 地域活動はアメリカとは違ったアプローチだったが、暖かく迎え入れてくださって充実した時間を過ごすことができた。
- 地域活動はそれぞれバラエティに富んでいて、どこのグループに行こうか迷った。
- 愛・地球博やトヨタの見学など、私たちが学ぶことのできる内容が沢山あり良かったが、その反面、こちらがコミュニティのために何かできるプロジェクトや地域の人々との交流の時間がもっとあっても良かったのでは？
- 豊田市の外国人在住者に対するケアや環境に関する取り組みを学ぶことができ勉強になった。

第2訪問地:長野県丸子町 (9/26 - 10/3)

<受け入れ先(実行委員会)>

UWP丸子実行委員会(実行委員長:ビル・レッティさん)

長野県丸子町教育委員会 社会教育課

OPIE(丸子町国際交流事業を進める会)

- * 受け入れまでのミーティング:8月より数回実施
- * 役割: UWP丸子実行委員会 全ての分野での受け入れ窓口
丸子町教育委員会 全ての分野での受け入れ窓口
OPIE ホストファミリー関係

<ホストファミリー>

丸子町、上田市、その他近隣に在住の32家族

ホストファミリー説明会:9月16日(金)午後7:00より丸子文化会館にて開催

ホストファミリー反省会:10月上旬「お疲れさま会」として開催

ほとんどがリピーターだが、初めての受け入れもあり。

<地域活動先>

28日:

- ① 陽寿荘(ラジオ体操、ゲーム、西内園児踊り披露等)メンバー15名
 - ② 中央小学校(ゲーム、教科参加等)→スーパー“つるや”にてイベントプロモーション活動(チラシ配布)→しおがわ敬老園(音楽、歌などの披露・スキンシップ等)メンバー15名
 - ③ 中央幼稚園(クラス活動参加、ミニミニ運動会等)メンバー5名
- 3グループとも午後2時より町内総合グラウンド西側のアレチウリ駆除に参加。昼食は各訪問先にて。

29日:

- ① 信州大学(スカベンジャーハントゲーム、ディスカッション)→丸子北中学校(全体歓迎交流会、パフォーマンス相互披露等)メンバー14名
- ② 7つの小グループに分かれて町内の幼稚園・保育園訪問 メンバー16名
 - * 中丸子保育園(運動会ごっこ等)
 - * みなみ保育園(運動遊び、リズム遊び等)
 - * 東内保育園(運動会練習参加等)
 - * 依田保育園(運動会ごっこ等)
 - * 塩川保育園(園外保育(ベルパークでゲーム))
 - * ちぐさ幼稚園(子供たちと遊ぶ)
 - * わかくさ幼稚園(運動会練習風景見学・参加等)
- ③ 徳寿荘(交流会(うた、マジック)等)→とんぼはうす(障害者作業施設:避難訓練と製作作業)メンバー5名

2日午前:

丸子町文化会館にて開催された「まるこ国際交流フェスティバル」の各ブースにサポートとして参加し、UWPのブースではメンバーの出身国などの紹介をした。

<地域学習>

丸子町教育委員会 滝澤教育委員長の講話

テーマ「日本／丸子町における教育のシステムについて:問題や今後の日本の教育の動向」

通訳:ビル・レッティ

日本の教育システム、丸子町が子供達のためにどのような政策をとっているかなど、教育委員長とメンバーたちの有意義な質疑応答が行われた。

<表敬訪問>

丸子町長 火曜日午前に8名が訪問

<UWP丸子セレブレーション&レセプション(さよならパーティー)>

2日(土)丸子文化会館 セレスホール (ホール収容可能人数:800名)

開場 午後1:30 スタート 午後2:00

今年のセレブレーションは「まるこ国際交流フェスティバル」の一環として開催された。会場も大きく、プロ使用のホールにメンバーは緊張しながらも全ステージを使い楽しんでいた。実行委員会主催のさよならパーティーは午後5:00より同会館の小ホールにて行われ、ホストファミリーやゲストを交えて立食形式の交流会を。UWPメンバーもミニファッションショーを披露したり、ゲストとダンスなどをして過ごした。

<Up with Peopleが行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

火曜日: 信州大学松本キャンパスにて大学生と交流(学内見学、プログラム紹介、松本城見学)

* UWP 丸子実行委員会ビルさんの紹介により実現

<プログラム参加への興味>

セレブレーション後に行った説明会…15名参加

関心者カード記入者(プログラムに関心を持ち、活動の詳細やイベント情報を希望)…15名

参加希望者インタビュー…1名

<その他>

* 施設利用:毎日、丸子文化会館内の会議室を2、3部屋利用。

* 駐車場:丸子文化会館内、UWPスタッフホテル内

* 食事:火曜日昼食は実行委員会メンバーが野菜カレーを作ってくれた。

* 先遣隊:UWPメンバー2名(日本人、ブラジル人)が訪問1週間前に丸子入りし準備。

<滞在を終えて>

受け入れ先の声:

- 準備開始の時期が遅かった。
- マッチング方法を要検討。ホスト(特に毎年応募しているホスト)からのクレームを減らすため、UWP 側とのコミュニケーションをもっと重要視したい。
- メンバーが活動先で率先して子供たちと遊んでくれて、子供たちにとって大変いい思い出になった。
- さよならパーティーでは、ホストもメンバーも盛り上がって楽しんでくれて充実した時間になった。

ホストファミリーの声:

- ホストファミリーデーは友好を深めるためにも大変有意義だと思う。
- 子供の運動会に参加した後、そば打ち体験に連れていったが、少しハード過ぎたかも。
- 初めて女性(3名)を受け入れた。個々に自分を持っており、かつやさしさ、気配りなど申し分ないメンバーだった。相変わらずメールで交流をしている。これからも自分の娘のように接していきたい。
- 我が家では大型犬を2頭飼っていて、犬好きの人を希望しているが、今回受け入れたメンバーはあまり好きではないようだった。ベジタリアンだとか豚肉がダメなどの情報もありがたいが、犬好き、犬嫌いというのでも知らせてほしい。毎年受け入れているので、犬好きのメンバーでないのなら今後の受け入れを考えたい。UWPとしてそのような情報収集はしていないとのことだが、ちょっと聞いてくれたらいいことでは？(UWPより注:動物アレルギーの情報は受け取っているが、好き/嫌いに関しての情報は手元になかった)。
- 何をするか、何を紹介するか悩む面もあったが、それ以上に一日一緒に行動することでうまれる一体感や、日本とはどんな国でどんな文化を持つのかを自らに問いながら伝える、素晴らしい体験となった。

UWPメンバーの声:

- UWP タウンということもあり、受け入れに慣れているようで、落ち着いた滞在だった。
- (スタッフで参加し)何度も訪れている場所。ホームタウンに帰ったような気分になる。
- (ホストの)自宅でお米や野菜を作っていて、自給自足の生活を始めて体験した!
- セレスホールの施設の充実さに感動。照明システムも素晴らしかった。
- 地域活動の幼稚園・保育園訪問は楽しかったが、1つの学校に2、3名となると、私たちのダイバーシティ(多種性)が失われてしまうし、人数が少ないことでできることの内容も限られてくる。訪問数の絞り込みをしたらどうか。
- いくつかの地域活動先では、ちょっとした歌や踊りを披露したのみで終わってしまうことがあった。またその時間の長さも30分など、かなり長時間にわたるアクティビティを要求していたので、活動内容を再検討してほしい。
- 大学生とのディスカッションやゲームは、同じ年代の日本人の人達と交流ができておもしろかった!
- 滝澤教育長の話は興味深く、もっと質疑応答の時間がほしかった。

第3訪問地:大阪市 (10/3 - 10/10)

<受け入れ先(実行委員会)>

UWP大阪実行委員会(実行委員長:阪本一恵さん)

サポート:UWP吹田実行委員会メンバー

後援:大阪ファミリーライオンズクラブ 新京橋商店街振興組合

共催:ユネスコ協会

* 受け入れまでのミーティング:8月下旬より数回実施

* 役割:UWP大阪実行委員会 全ての分野での受け入れ窓口・統括

<ホストファミリー>

大阪市や近隣在住の28家族

ホストファミリー説明会:9月25日(日)午前10:00よりクレオ大阪東にて実施

ホストファミリー反省会:なし

当初、応募状況が悪く、説明会の少し前にやっと全員分のホストが見つかった。

大阪市初訪問ということで、初めての受け入れが多かったが、'05春に吹田市訪問の際のホストからの再度申し込みや、UWP同窓生、他の訪問地の実行委員会のメンバー経由での応募など、新しい輪が広がった。

<地域活動先>

新京橋商店街での活動:

- * プランターの花の植え替え&取り付け(美化に関するメンバー直筆メッセージカードを添えて)
- * 商店街の掃除
- * 緑化おおさか(花博)のPR活動(種の袋を配布)
- * 新京橋商店街のPR活動(商店街のラジオ放送の録音に参加。世界の言葉でメッセージ)

<地域学習(木曜日)>

大阪ファミリーライオンズクラブの協力により、午前中は大阪城見学、午後からは桜宮リバーサイドホテルにて、地元の大学生と地域の方々との「理想のまち」をテーマにディスカッションを開催した。

参加者:UWP約50名、地元の大学生約35名、大阪ファミリーライオンズクラブメンバー約15名

<表敬訪問>

なし

<文化交流会>

5日(水)午後5:00スタート 都島区民ホール

桜宮中学校吹奏楽部の演奏や、桜宮連合女性民謡クラブ、桜宮だんじりばやしの発表、メンバーも踊りに参加してコミュニティーベースの交流が繰り広げられた。UWP側も通常のセレブレーションか

らのナンバーを披露したり、ファッションショーを行った。その後は参加した地元の方達とお菓子や飲み物を囲んで時間を過ごした。

<御堂筋パレード>

9日(日)午後2:30 梅田・曽根崎署前に集合、チェックインポイントまで誘導、待機

午後4:00頃 パレード参加

午後6:00頃 難波にて解散

2006年春に開催される、第23回全国都市緑化おおさかフェア「花・彩・祭大阪2006」PRパレード隊として御堂筋パレードに参加。メンバー全員、お揃いの緑のTシャツや帽子を身に付け、緑化や平和のメッセージを発信した。

<Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

火曜日：甲南高校にて教員、国際交流担当教員とメンバーが面談

*UWP大阪実行委員会三原さんの紹介により実現

<プログラム参加への興味>

説明会を実施することができなかったが、ディスカッションに参加した大学生から活動に関心を示す声が上がっていた。2006年1月に説明会実施予定。

<その他>

*施設利用

到着日：京橋K2ビル 会議室

火・水曜日：都島区民ホール 大ホール・和室

木曜日：桜宮リバーサイドホテル

*駐車場

UWPスタッフホテル・都島区民ホール・フィールド京橋(2tトラック)

*先遣隊：UWPメンバー2名(日本人・韓国人)が訪問1週間前に大阪入りし準備

<滞在を終えて>

受け入れ先の声：

- 準備のスタートが遅すぎた。今度は基盤をしっかりと整えて受け入れたい。
- 大阪府には吹田市にも受け入れ実行委員会がある。今後のためにも大阪府の実行委員会という形で1つになり、大阪府内の訪問の際は受け入れ母体となって、各町(大阪市、吹田市など)に「事務局」を設けた方が、他団体や行政とのつながりもうまくいくのではないかと。
- ライオンズファミリークラブメンバーも世界の若者達と意見交換ができて良かったようだ。
- 大阪市内のため、メンバーが移動する大型バスの駐車スペース、またホストファミリーの乗用車の駐車スペース確保は難しいところ。事前にもっとリサーチをしたほうがよかった。
- 文化交流会の宣伝をもっとするべきだった。(ホストファミリーも招待していたが、参加者が少なかった。開始時間の再検討が必要。)
- 最終日、バスが出発するのを見送ったときは泣いてしまった。他団体からもいいコメントをもらっ

たので、また次回も受け入れを前向きに検討したい。

ホストファミリーの声：

- 短すぎる1週間だった。家族全員楽しんだ。
- 連日、長時間にわたるカリキュラム、慣れない電車での移動、気候の変化のため、受け入れたメンバーの1人は体調を崩し2日間休んだ。もう少し緩やかなスケジュールがいいのでは？
- メンバー達自身の時間ももう少し必要に思えた。
- 大阪では大きなイベントがあり、緑化がテーマであったが、単にイベントに乗っかったに過ぎない部分もあるように感じた。もっと突っ込んだ形で地域に入っていくような企画にしたらどうか。
- 自分の娘もいつかこのプログラムに参加してくれたらと思う。
- インターネット、電話の使用時間が思っていたより長かった。国際電話は自分のコーリングカードでかけていたが、国内電話は使っていなかった。もっとホストファミリーに気を遣ってほしい。
- (間違った電車に乗って迷ってしまったらしく)休日に遅く帰ってきて心配した。
- ホストファミリーデーには家族全員でショッピング、観光、夕食作りをした。英語は話せないが、コミュニケーションはとれるものだと実感。

UWPメンバーの声：

- 電車を乗り継いで行動するというのは初めてだったので、最初は迷ったが、ホストをはじめ色々な人達に助けられ何とか乗り切った。公共交通機関がとても充実していて感心した。
- ホストファミリーの家から集合先まで約1時間30分かかるのはつらいし、ホストとの時間も短くなるので、ホスト募集の際はもう少し通学時間を考慮してほしい。
- UWPが大きな街に滞在することはあまりないので、都市ならではの選択肢の多さ(観光、食事など)を楽しんだ反面、大都会特有のペースの速さに驚き、またUWPの「交流」という面があまりカバーされていないように感じた。
- 文化交流会にホストがほとんど参加していなくて、ホストファミリーと集まって交流を持つ機会がなかったのは残念。
- 地元の大学生とのディスカッションは、同年代の日本人の人達がどのような意見を持っているかを聞いてとてもためになった。彼らも何かを感じとってくれればうれしい。
- 御堂筋パレードはすごい人の数でエキサイティングだった！参加することができて大変光栄に思うが、参加して結局私たちが何をすることができたのか疑問に残るところ。
- 新京橋商店街での美化活動は、久しぶりに体を動かして活動する内容でよかったが、各プロジェクトに参加するメンバーの人数と活動スペースのバランスが取れていなかったように思う(人数が多すぎて活動がすぐに終わってしまったところがある)。他の地域活動も検討してみたらどうか。
- 大阪城を見学し、大阪のモダンな部分だけでなく、歴史を知ることでもできてよかった。

第4訪問地:奈良県室生村 (10/10 - 10/17)

<受け入れ先(実行委員会)>

UP室生国際交流村(委員長:北森義卿さん)

室生村役場 企画調整課

* 受け入れまでのミーティング:7月より大体毎週実施

* 役割: 室生村役場 企画調整課 全ての分野の受け入れ窓口

UP室生国際交流村 全ての分野を統括

フレンドリークラブ ホストファミリー・通訳ボランティア募集担当

<ホストファミリー>

室生村や近隣在住の37家族

ホストファミリー説明会:9月15日(木)午後7:00より室生村振興センターにて開催

ホストファミリー反省会:10月21日(金)午後7:00より室生村振興センターにて開催

ほとんどが初めてのホスト体験。メンバーとのコミュニケーション方法や食事のなどを心配していたが、ホストファミリー説明会、また訪問1週間前にUWP先遣隊を交えて事前交流会を行ったことで、「不安が少なくなってリラックスして受け入れができそうだ」という声が聞こえた。反省会では、有意義な意見交換が繰り広げられ、中にはメンバーとの楽しい1週間を思い出し、言葉を詰まらせるホストファミリーもいた。

<地域活動先>

水曜日:

室生東小学校 メンバー11名

室生西小学校 メンバー11名

室生中学校 メンバー11名

室生園 メンバー10名

各学校で授業参加や出身国の紹介、小学生と共に日本文化体験などをして過ごした。室生園では施設内ツアーの他にふれあい交流や音楽療法についても学んだ。

木曜日(午前):龍穴神社にて秋祭りに備えた清掃。

<地域学習>

木曜日:龍穴神社から山上公園までハイキング。昼食は室生村食生活改善推進員協議会の方達が用意した栄養たっぷりのランチ。その後、室生寺見学。

金曜日(ウォークラリー):5、6名のグループに分かれて、チーム対抗のハイキング(各チェックポイントでゲームやクイズに挑戦)。2コースあり、のどかな自然を堪能できるルートや、昔の日本を思い出させる神社や廃校になった小学校などが含まれたルートを約5時間にわたって探訪。また各ルートの途中で、仏教についての講話や茶道も楽しんだ。昼食:ホストファミリーのお弁当。

土曜日:龍穴神社秋祭りを見学。

<表敬訪問>

室生村長 木曜日午後UWPメンバー4名が訪問

<UWP室生セレブレーション&レセプション>

15日(土) 室生村振興センター 大集会室 (収容人数 約250名)

開場 午後4:45 スタート 午後5:00 スタート

司会・進行:UP室生国際交流村

午後5:00~6:00まではUP室生国際交流村からの挨拶、荒井敦子先生主宰のまつぼっくり少年少女合唱団によるわらべうたを取り入れた発表があり、UWPメンバーも北森委員長の心温まるメッセージや、荒井先生の楽しいトーク、まつぼっくりの子供たちの素敵な歌声に感動していた。セレブレーションは6:00よりスタートし、ゲストの皆さんもメンバーと一緒に歌ったり踊ったりと、楽しいひとときを過ごした。その後は立食パーティー形式の交流会が行われ、メンバーがファッションショーや自国の伝統音楽を即興で披露したりと大盛況に終わった。

<プログラム参加への興味>

セレブレーション後に行った説明会…10名参加

関心者カード記入者(プログラムに関心を持ち、活動の詳細やイベント情報を希望)…7名

参加希望者インタビュー…3名

<その他>

* 施設利用

到着日~出発日(火曜日をのぞく):室生村振興センターを利用

火曜日:やまびこホール使用

* 駐車場

室生村役場駐車場・UWPスタッフホテル駐車場を利用

* 先遣隊:UWPメンバー2名(日本人・アメリカ人)が訪問1週間前に室生村入りし準備

* 食事

火曜日昼食:UP室生国際交流村の女性メンバーが手作りの昼食(ビュッフェ形式)を用意。

木曜日昼食:室生村食生活改善推進員協議会(Health Mate)メンバーが手作りの昼食(お弁当形式:キッシュ・パン・スープ)を用意。また、土曜日の立食パーティーには郷土料理を用意。(のっぺ汁・茶粥など)

<滞在を終えて>

受け入れ先の声:

- 初めての受け入れということで、最初はよく分からないままの状態でのスタートだったが、準備を進めるうちに、室生らしさが伝わるということを大切に、また、息の長い国際交流ができる環境を作り上げようと感じた。
- 滞在中はあっという間に過ぎてしまった。面白かった!
- 先遣隊のための準備がよくできていなかったため、最後になって2人に沢山の仕事をお願いしてしまった。頑張ってくれて助かった。

- ホストファミリーも楽しんだようで安心したし、地域の方との交流もでき嬉しかった。
- 今回の訪問は「Murouing」と名づけ、UWPメンバーに他の訪問地とは違う、時間がゆっくり流れるこの村で、のんびりと自然を楽しみながら室生らしさ(Murouing)を味わってほしいと願って準備を進めたが、色々プランをたて実行に移してみると、スケジュールがきついように感じ、反対にメンバーが疲れる滞在になってしまったのではないか。
- 次回はもっとPRに力をいれていきたい。
- メンバーが真面目で、好奇心旺盛で色んなことに興味を持ってトライしてくれて有難かった。

ホストファミリーの声：

- 同じ地域で5家族も受け入れていたので、皆で集まってパーティーをした。他のメンバーやそのホストファミリーの方達と交流ができよかったと思う。
- もう少し時間の余裕があればゆっくり過ごせたのではないか。メンバーがかわいそうだ(例：解散時間を早める、ホストファミリーデーを1日増やすなど)。
- 今回初めてホストファミリーになり、久々に家族揃って夕食をとったり、一緒に時間を過ごしたりするなど、家族の絆が深まった。
- ホームステイ先を決めるとき、年齢や本人の希望(1人でも良いか、複数の方が良いか)も考慮に入れながらされてはどうか。ホストファミリー募集の際、応募の動機も聞いて、メンバーにそれで良いか確認してほしい。
- ホストファミリーの方達からスケジュールが忙しすぎるという声が多くあったが、いっぱいいろいろなことを経験してほしいのでしかたがないと思う。
- 受け入れメンバーから室生村の良さ(皆あいさつをする、夜に虫の音が聞こえる、夜に車の音が聞こえない、お隣の人から野菜をもらったりして交流している等)を逆に教えてもらい、新しい発見だった。
- ホストファミリーデー前日に予期せぬ外泊(友達のホスト宅)をされ、当日の予定が大幅にくるつたので、誘い合いは避けてほしかった。
- 私も若かったらこのプログラムに参加したかった！ 1週間は瞬間に過ぎたが、今でもメンバーの笑顔、言葉、そして家中に思い出があり、久々に満ち足りた気分になっている。本当にありがとう！

UWPメンバーの声：

- Murouing はワンダフル！ 自然に囲まれて過ごし、肩に力が入っていないおもてなし、人の温かさに感動した。また来たい。
- 本当に最初から最後まで「地域の人達が作り上げた」という印象があった。こちらが色んなことを経験させてもらって、逆に地域に貢献できているかが心配。
- 久々に屋外での体を動かして行う活動で良いエクササイズとなったが、少し内容が重複していたかもしれない。休日を増やしてホストと過ごす時間がほしい。
- 国宝室生寺の歴史や仏教についてなど、色んなお話を聞いて勉強になった。事前に話す内容を教えてもらえれば、それについての質問を事前に伝えることができるし、当日通訳さんを困らせずにすむ。仏教についてはもっと深く知りたかった。
- 火曜日、木曜日に地元の方達が作ってくれたランチや、交流会の郷土料理などとても美味し

かった！

- 宗教だけにとらわれず、他のテーマを含めても良いかもしれない(例:アートアルカディアのこと、人権問題のこと(振興センターの人種差別をテーマにした子供達が描いた絵に驚いた、等)
- 最終日、村の人にお別れを言って出発し、バスがインターに向かう道の先に、ウォークラリー中に聞いた太鼓、笛の音と、持って歩いた各チームの旗が！ 村の人が一緒になって見送ってくれた姿に感動！

第5訪問地:東京都多摩市 (10/17 - 10/24)

<受け入れ先(実行委員会)>

UWP 多摩実行委員会(委員長 田中實さん)

後援:多摩市 多摩市教育委員会 多摩市国際交流センター

* 受け入れまでのミーティング:定例会を月に1回開催

* 役割:UWP 多摩実行委員会 全ての分野の受付窓口&統括

<ホストファミリー>

多摩市、また近隣在住の43家族

ホストファミリー説明会:9月17日(土)午後1:30よりヴィータコミュニネ(OPA8F)にて実施

ホストファミリー反省会:11月日(土)午前10:00よりベルブ永山にて実施

ほとんどがUWPホストファミリー経験者。初めてのホストファミリーもいた。反省会では、リピーターの方と初めての方達との間で有意義な意見交換や、地域活動やセレブレーションなどのビデオ上映のほか、実行委員会からの次回へ向けての思い、協力をお願いなどを伝えていた。

<地域活動先>

水曜日、木曜日はメンバー50名が3つのグループに分かれ訪問し、UWP主体のアクティビティや全校集会などを行った。

水曜日:

聖ヶ丘中学校 メンバー18名 通訳ボランティア3名

多摩永山中学校 メンバー15名 通訳ボランティア6名

大松台小学校 メンバー14名 通訳ボランティア3名

木曜日:

和田中学校 メンバー23名 通訳ボランティア10名

南貝取小学校 メンバー12名 通訳ボランティア4名

北豊ヶ丘小学校 メンバー12名 通訳ボランティア4名

土曜日(午前10:30から午後2:30まで):永山商店街での市民交流

午前中は4つのグループに分かれ、運動会、お店のお手伝い、昼食準備、出身国の紹介などを行った。また、市民の有志による落語の披露もあり、英語の解説を見ながら日本芸能を楽しんだ。

<地域学習>

火曜日:林 吉郎教授 講演&ワークショップ

「異文化間ビジネスコミュニケーション」

今まで80カ国以上1500人以上の会社重役などに対して講義を行ってきた林教授を迎えてのワークショップ。異文化間のコミュニケーションを日常肌で感じ、学んでいるメンバーにとって、とても興味深い内容だったようで、講演後も教授に質問するメンバーがたくさんいた。

水曜日:フォトジャーナリスト 桃井和馬さん スライド写真展

「この大地に命、与えられしものたちへ」世界各地の紛争や地球環境がテーマのプレゼンテーション。

熱心にメモを取ったり質問をしたりと、メンバーにとっては大変魅力ある時間であった。

木曜日: サントリービール工場、国士舘大学(剣道部・柔道部・相撲部)見学

サントリービールでは、ビールの製造過程のレクチャーを受けた後、工場内の製造の様子を見学しました。その後、ビールの試飲も行い、「おいしい」「すばらしい」「おかわり」など、覚えてたの日本語を連発しているメンバーもいて、楽しい時間を過ごせたようだった。国士舘では、練習場内に響き渡る部員の声や気合のかなりの迫力にメンバーも圧倒されたよう。

<ホストファミリー主催 Welcome Party>

水曜日午後 5:30 より ベルブ永山にて

ホストファミリーの皆さんの心づくしの持ち寄り夕食で Welcome Party が開かれた。アトラクションもライブパフォーマンスやマジック、バルカンダンスなど、ホストファミリーとメンバーが共に素敵な時間を過ごすことができた。

<表敬訪問>

なし (多摩市長はセレブレーションに出席のため、表敬訪問はなし)

<UWP多摩セレブレーション&レセプション>

22日(土) やまばとホール (ホールの収容可能人数 約 500 名)

開場 午後 6:30 スタート 午後 7:00

プレ・レセプション進行・立食パーティー: UWP 多摩実行委員会

セレブレーション司会・進行: UWP 先遣隊

セレブレーション入場料: 中学生以下 無料、高校生以上 500 円、一家庭 1000 円

セレブレーション前にメンバーの夕食、関係者との交流を兼ねて、プレ・レセプションが開かれた。多摩市教育委員会関係者や、来日中の UWP CEO・COO も出席。セレブレーションは午後 7:00 より開始。奥行きのあるステージを有効に使い、ゲストと共に楽しい時間を過ごした。また、今回は特別企画として、UWP 日本同窓生が集まり、UWP 国際同窓会が今年の夏、愛・地球博にて開催した「The Tree of Nations」のナンバーから数曲を披露した。

<Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

前週: メキシコ人スタッフによる 1 週間の東京圏アドバンスリクルートツアーを実施。都内 8 大学を訪問し、教員や国際交流担当者と面談。また、啓明学園の高校クラスにて交流(参加者出身国、プログラム紹介)

火曜日: 多摩大学にて大学生と交流(意見交換、プログラム紹介、昼食)

* UWP 丸子実行委員会の紹介により実現

水曜日: 桜美林大学英語 2 クラスにて大学生と交流(プログラム紹介、ディスカッションゲーム)

桜美林大学国際関係ゼミにて大学生と交流(参加者出身国、プログラム紹介、ディスカッションゲーム) * 日本人参加者徳永亜弥さんの出身ゼミをメンバーとともに訪問

＜プログラム参加への興味＞

セレブレーション後に行った説明会…25名参加

関心者カード記入者(プログラムに関心を持ち、活動の詳細やイベント情報を希望)…13名

参加希望者インタビュー…2名

＜その他＞

* 施設利用

月～水曜日:ベルブ永山 ホールの他に使用可能な部屋 2 部屋

木曜日:パレテノン多摩 シティサロン

土曜日:やまばとホール ホールの他に使用可能な部屋 5 部屋(楽屋など)

* 駐車場

UWP スタッフホテル・やまばとホール

* 先遣隊:UWP メンバー2名(日本人・メキシコ人)が訪問 1 週間前に多摩入りし準備

＜滞在を終えて＞

受け入れ先の声:

- 去年に比べ、プログラムが改善され、内容がしっかりしていた。
- 今年は先遣隊が来てくれて大変助かった!
- 去年の反省から、誰にでも実行委員会メンバーということが分かるように、ピンクのロゴ付きジャンパーを着用。屋外活動や駐車整理などでその効果を発揮できよかった。
- 地域活動の内容:多摩市内の学校訪問を実施し、子供達と世界の若者達の交流をテーマにしているが、もっと幅を広げてみてもいいかもしれない。
- 次回は是非ハロウインの時期に合わせて、多摩の市民イベントに参加してほしい。
- ホストファミリー／通訳ボランティアからのアンケートで登録費の話題になった。方向として、申請可能な助成金や協賛金を集め、できるだけ皆さんの負担を軽くしたい。

ホストファミリーの声:

- 毎回良いメンバーで、子供達も喜び、楽しく過ごすことができた。
- すぐ PC に向こうのでふれあう時間がすくなかった。
- Welcome Party で輪が広がった。
- 地域活動を見学し、メンバー達の前向きな良いエネルギーを分けてもらった。
- 英語ができないので不安だったが、説明会の時に渡されたパンフレットに「心と心のつながりを…」と書いてあり、すごく気がラクになった。
- 登録費として 2000 円払ったが、何とか無料にしてほしい。
- 最後のお弁当作りは負担だった。
- 食事リストブックはそれまでの食事のこと、好み分かり効果的。

UWPメンバーの声：

- 対面式の多摩太鼓には感動。太鼓を触ることもできて楽しかった。
- 桃井氏の講演は非常に強いインパクトを得た。このようなゲストスピーカーは他の訪問地ではなかった。
- 地域活動：学校先ではUWP主体のカリキュラムができ充実した時間になった。子供達も活動を通して、違った文化やチームビルディングについて学んでくれたらうれしい。ただ、すべてのクラスでUWP主体のアクティビティが十分に出来たわけではないので、学校側の理解がもっと必要かも。
- 剣道部見学はとてもエキサイティングだった！
- 電車での通学時間が長く、特急や準急、快速など、どれに乗っていいか分からなくて困ったときがあった。
- Welcome Party はホストファミリーとの時間が過ごせてよかった。
- サントリービール工場は勉強になり、試飲も楽しかったが、少しはしゃぎすぎたメンバーもいたので、参加メンバーの年齢によってはベストな見学先ではないかもしれない。
- 永山商店街での活動は、内容の再検討をお願いしたい。人もまばらな中できちんと貢献できているのか分からなかったし、準備も完全なものではなかった気がする。
- やまばとホールはステージの大きさもちょうどよく、発表しやすかった。
- 日本人ということで、地域活動先(学校)で生徒に嫌がられ、残念だった。
- 実行委員会のピンクのジャケットは良いアイデアだと思う。メンバーにとっても分かりやすいので、質問があるときはすぐに人を見つけることができる。
- 実行委員会の人々が私たちの前で、UWP 受け入れの理由や、どのように運営しているかを直に話してくれてよかった。グループの中にはセレブレーションでゲストが入場料を払うのに抵抗があるメンバーもいるので(殆どの訪問地では無料)、そういう点もクリアに説明してほしかった。

第 6 訪問地:千葉県我孫子市 (10/24 - 10/31)

<受け入れ先(実行委員会)>

住みよいまちづくり研究所(代表 浜崎慶子さん)

UWP 招聘委員会(委員長 浜崎麻沙さん)

* 受け入れまでのミーティング:7 月より数回

* 役割:住みよいまちづくり研究所 & UWP 招聘委員会 全ての分野での受け入れ窓口・統括

<ホストファミリー>

我孫子市、また近隣在住の 42 家族

ホストファミリー説明会:9 月 19 日(月)午後 2:00 より水の館にて開催

ホストファミリー反省会:1 月 14 日(土)午後 3:00 よりアビスタにて開催予定

去年のリピーターも多数応募。広報からの応募もあった。かなり早い時期に全員分のホストファミリーを確保した。説明会ではホストファミリーが住んでいるエリアごとに集まり、意見交換、毎日の送り迎えの時間を相談する機会をもった。

<地域活動先>

メンバー約 40 名が以下の 10 活動先を訪問、交流活動、授業参加、日本文化体験・見学を行った。

しろばら幼稚園

高野山小学校

取手第二中学校

神輿見学

白山中学校

防犯協議会訪問

並木小学校

福祉施設

野々井中学校

電力中央研究所

<地域学習>

火曜日:プレゼンテーション&ディスカッション

岸麻衣子さん JACT ポラリスプロジェクト プログラムオフィサー

テーマ「人身売買について」

最初はダークなテーマに戸惑うメンバーもいたが、日本を含めアジアでおこっているこの問題、女性の権利について、白熱したディスカッションが行われた。

水曜日:国会議事堂&NEC本社訪問/カナダ大使館見学

国会議事堂では見学のほか、議員との交流も行った。NEC では CSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)のレクチャー&質疑応答、カナダ大使館では館内ツアー&ディスカッションの機会をもった。(NEC とカナダ大使館は UWP がアレンジ)

<表敬訪問>

我孫子市長 火曜日午後 UWP メンバー5 名が訪問

<UWP我孫子セレブレーション&レセプション>

29 日(金) アビーホール

開場 午後 2:30 スタート 午後 7:10

司会・進行、立食、交流会:UWP 招聘委員会

セレブレーション&交流会入場料:大人 2000 円 子供 1000 円

午後 3:00~5:20 までは交流会第一部として、フラダンスやかっぱれ、小物作りなどがメンバーとゲストが参加し行われた。立食パーティー形式の夕食会の後、セレブレーションは午後 7:10 より開始。日本ツアー最終訪問地ということで、メンバーは日本最後のセレブレーションを力いっぱい発表した。来場した沢山のお子さんも楽しんでいただけたようだ。

<Up with People が行った大学生交流、プログラム紹介、プロモーション活動>

火曜日: 上智大学経済学部物流ゼミにて大学生と交流(文化比較、意見交換、プログラム紹介)

FM 西東京の舞台関係のラジオ番組にメンバー3 名が出演。収録を行った。

木曜日: 川村学園女子大学英語クラスにて大学生と交流(文化紹介)

金曜日: 上智大学英文学科にて大学生と交流(尊敬する人プレゼンテーション、意見交換、プログラム紹介)

<プログラム参加への興味>

セレブレーション後に行った説明会…15 名参加

関心者カード記入者(プログラムに関心を持ち、活動の詳細やイベント情報を希望)…5 名

参加希望者インタビュー…1 名

<その他>

* 施設利用

月曜日:アビスタ

火曜日:水の館・アビスタ

木曜日:白山中学校

金曜日:イトーヨーカドー アビーホール

* 駐車場

初日~最終日:UWP スタッフホテル

セレブレーション日:アビーホール近くの商店(浜崎さんが手配)

* 先遣隊:UWP メンバー1 名(日本人)が訪問 1 週間前に我孫子入りし準備。

<滞在を終えて>

受け入れ先の声:

- 住みよいまちづくり研究所と UWP 招聘委員会の役割分担について再検討する余地がある。また、ミーティングで決まったことが知らない間に変わっていたり、問題がいつの間にか解決しているということが多々あり、時間を割いて話し合った意味がよく分からなくなった。
- 交流会チケットの販売方法: 前売りと当日券の区別が曖昧だったため、受付でモタモタしてしまった。
- 交流会では、ボランティアの方のご協力が本当に大きかった。
- 先遣隊メンバーに委員会メンバーが一丸となって受け入れ対応ができなかったことを申し訳なく思う。受け入れ先は先遣隊の訪問も含め、2 週間が UWP の受け入れの期間と理解して動くべきだと思う。
- 交流会のあり方を再検討したい。
- ホストファミリー登録制度: 諸支出はホストファミリー登録費でまかなうことが出来るか?
- 地域活動は訪問先が多すぎた。次回は数を減らし、メンバーが興味のあるものを優先して実施したい。メンバーそれぞれ気になる分野があるようだったので、地域文化・教育・経済・環境などに分ければ活動も学校ばかりではなく多方面においてすることができるのでは?

ホストファミリーの声:

- メンバーのスケジュールが忙しそうで、話す時間があまりなかった。
- ホストファミリーデーはまず、本人に何がしたいか希望を聞いたうえで計画をたてたので、お互いにリラックスしていいふれあい交流ができた。
- これまでボランティアというものをしたことがなかったので、こんな形で参加できるのは今の私に合っているように思う。言葉、文化の違いがあっても同じ人間同士の心のふれあいは世界共通であると実感。
- 対面式の時に歓迎パーティーをしてホストの皆さんやメンバー、スタッフの方々との交流を滞在の始めにしてほしいと思った。また交流会での一般の方を交えての立食パーティーは改善の余地があると思う。
- ホストファミリー同士の横のつながり(エリアに分かれての小グループ)やメンバーの食事メニューのノートがあったことはとても助かった。
- 休日、メンバーが夜 11 時に帰ってきて心配した。
- 受け入れたメンバーは明るくやさしい子で、日本食大好きで何でも食べてくれた。おしるこのレシピを教えた。1 週間の楽しい国際交流だった。
- 出発日の前日夜にホストファミリーブックにメッセージを書いてほしいといわれ困った。英語で書きたいのもう少し時間がほしかった。説明会で渡されるかもしれないと伝えた方が心の準備ができてよかったのでは?
- 3歳の娘が人見知りするので不安だったが、恐ろしいくらいなじみとても楽しい日々だった。
- 交流会でのパフォーマンスが素晴らしく、世界平和を改めて意識した。
- 日本人とのコミュニケーションの取り方の違いに文化の違いを感じ、ストレートさに裏表のなさを感じ、お互いに国際交流を身近に感じる事が出来た。
- インターネットや電話料金のことなど、メンバーにもっと指導してほしい。

UWPメンバーの声：

- 交流会は盛りだくさんで楽しかった。立食パーティーでは一足遅かったのかあまり食べることができずに残念だった。
- 火曜日の施設(水の館)は飲食ができないので不便。水を飲むのにも外に出ないといけなと言われ、困った。
- 地域活動はバラエティに富んでいて迷ったが、各訪問先の参加人数が少ないとダイバーシティ(多種性)がないのでUWPとしてあまり力を発揮することができないのではないかと(特に外国人との交流、異文化の勉強を楽しみにしている学校など)。また、コミュニティに活動が出来る場所がもっとあるはず！(例:手賀沼など)活動内容の再検討をお願いしたい。
- 国会議事堂での見学やディスカッション、その後のNEC・カナダ大使館訪問はためになって、メンバーとしてはいい機会であったが、我孫子内での交流活動が少なくきちんと貢献ができていたのかが疑問。
- ヨーロッパ出発前に2日間休みがあったおかげで(休日、ホストファミリーデー)荷物の整理をしたり、日本最後のホストファミリーとゆっくりすることができた。
- 毎日、近所のグループと集まって通学していたので公共交通機関で迷うことなく安心した。また、近所にステイしているメンバーとホストファミリーとでパーティーもでき、楽しい時間を過ごせた。
- 似顔絵を描いてもらえていい記念になった。
- 金曜日は部屋が十分なくて(ホール1つのみ)プロジェクトに取り組むことができなかった。プロジェクトに取り組む環境がないことで、最終的に委員会の皆さんに迷惑をかけることもあるので、委員会の皆さんに各活動日の部屋の必要数を知っておいてほしい。
- ホストファミリーと都内にショッピングに行けて一緒に時間を過ごすことができてうれしかった。
- 初日、都内観光をしてから電車で我孫子へ向かうのは良いアイデアだと思ったし、いい機会になった。
- 水の館の周りは自然がいっぱいだったので、ホストファミリーチームと対抗してサッカー大会など楽しいかもしれない。

今後の課題

UWP 本部、各地の受け入れ先、他団体とともに以下について検討していく予定である。
(2005 年 12 月現在)

- 1 週間のスケジュールの再検討
- 訪問に向けての準備方法: 実行委員会マニュアル
- コミュニケーション: 受け入れ先&UWP、ツアー訪問地の実行委員会同士の交流
- 先遣隊の事前指導: 先遣隊マニュアル
- 地域活動: テーマ性、各地で何かできるのか、メンバーの貢献度
- 地域学習: ゲストスピーカー、見学
- ホストファミリー: マッチング(振り分け)、説明会資料、メンバープロフィール
- メンバーへの指導: ホストファミリーとの過ごし方、コミュニケーション方法、訪問地/地域活動先の事前学習
- セレブレーション(ミュージックパフォーマンス): 宣伝方法、利用スペースの再確認
- 交流会: 各地のアトラクション内容、流れ
- 将来参加者募集について

おわりに

今回の日本ツアーを振り返り、たくさんの出来事や改善点を見つめなおしました。今後再検討が必要な課題は多々ありますが、このツアーを通して、本当に数え切れないほどの出会いや楽しい思い出をつくることができました。各地の受け入れ先の皆様のたえまないご協力に、UWP 一同、心より感謝しております。メンバーはツアー中、いくつもの交流活動を行いました。これらの交流から学んだことを、自分達のコミュニティで活かし、貢献してくれるよう願ってやみません。

2006 年春のツアーが延期になり、来年より今までのプログラムをバージョンアップさせ、Up with People Global Education Program として新たに出発いたします(詳細については 2006 年企画書をご参照ください)。新生 UWP はまだ完成しておらず、これから作り上げていく段階です。UWP メンバー、受け入れ先の皆様、ホストファミリーの皆様、そして各地でこれから出会う方々にとってクオリティの高いプログラムとなるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Up with People 日本オフィス
宮脇真一 徳田依子 富田愛里